

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 1 区分
 【発行日】令和 1 年 8 月 8 日 (2019.8.8)

【公表番号】特表 2018-520296 (P2018-520296A)
 【公表日】平成 30 年 7 月 26 日 (2018.7.26)
 【年通号数】公開・登録公報 2018-028
 【出願番号】特願 2017-568064 (P2017-568064)
 【国際特許分類】

F 0 3 G 7/06 (2006.01)

F 0 1 N 5/02 (2006.01)

【 F I 】

F 0 3 G 7/06 D

F 0 1 N 5/02 B

F 0 3 G 7/06 F

【手続補正書】
 【提出日】令和 1 年 6 月 26 日 (2019.6.26)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

コアを画定するよう互いに実質的に平行に位置する複数のワイヤとして配置された複数の形状記憶合金 (S M A) もしくは負熱膨張性 (N T E) 要素を備えるエネルギー回収装置であって、前記複数のワイヤは、前記コアの中央寄りに位置するワイヤほど、コアの外側寄りに位置するワイヤに比べて小さい直径を有するように異なる寸法を有するように選択され、温度変化に応じて実質的に同時に活性化されることを特徴とする、エネルギー回収装置。

【請求項 2】

前記ワイヤ径は、前記コアのいずれの点においても流体の流れ特性に適応するように、かつ他のワイヤに対する流れの影響およびバンドルを貫通する際の流れのエネルギー損失を考慮して選択され、前記複数のワイヤについて均一の活性時間が達成される、請求項 1 に記載のエネルギー回収装置。

【請求項 3】

前記複数のワイヤの少なくとも 1 本は一端にてテーバ状になっている、先行する請求項のいずれかに記載のエネルギー回収装置。

【請求項 4】

少なくとも 1 本のワイヤの活性化が、マルテンサイト状態からオーステナイト状態への変態を含む、先行する請求項のいずれかに記載のエネルギー回収装置。

【請求項 5】

エネルギー回収装置で使用されるコアであって、前記コアは互いに実質的に平行に位置する複数のワイヤを備え、前記ワイヤは異なる寸法を有するよう選択され、前記ワイヤは温度変化に応じて実質的に同時に活性化され、前記コアの中央寄りに位置するワイヤほど、コアの外側寄りに位置するワイヤに比べて小さい直径を有する、コア。

【請求項 6】

コアを画定するよう互いに実質的に平行に位置する複数のワイヤとして配置された複数の形状記憶合金 (S M A) もしくは負熱膨張性 (N T E) 要素を備えるエネルギー回収装

置を作成する方法であって、異なる寸法を有する複数のワイヤを選択するステップと、温度変化に応じて実質的に同時に活性化され、前記コアの中央寄りに位置するワイヤほど、コアの外側寄りに位置するワイヤに比べて小さい直径を有するように前記複数のワイヤを位置付けるステップとを含む、方法。